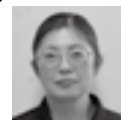


わくわく家庭菜園



野菜
坂田 沙貴
上島営農指導センター
080-1759-0091



オクラ



昨今の健康志向から夏野菜の定番となりつつあるオクラ。上手に栽培できれば10月まで収穫可能です。ぜひチャレンジしてみてください。

《圃場準備》

・圃場は日当たりが良く、センチュウに汚染されていない排水良好な圃場を選ぶ。

・（毎年同じ場所に作付すると寄生性センチュウの割合が増加し連作障害が発生する）

・梅雨期の栽培となるため、排水対策は万全にし、高畝にするなど長時間浸水しないようにする。

・管理、作業を考慮し、通路はなるべく広く取れるようにする。

・基肥の施用が多すぎると初期生育が旺盛となり着果が遅れるため注意する。特に、前作が野菜の場合は基肥は入れず、追肥で追っていく。

・前作が野菜でない場合の元肥量

（栽植様式）

	畝幅	株間	条間
1条植え	90cm	18～20cm	—
2条植え	135cm	22～25cm	35～40cm

（例）オール14の場合1㎡あたり400g

《播種・定植》

・地温が15℃を確保できたら播種・移植する。無理な早播きは発芽率の低下や苗立枯病に大きく影響する。

・直播の場合、1穴当たり5～6粒播き。指先で軽く鎮圧し、無病の土（育苗培土や赤玉土など）で被覆する。深播きは発芽が不揃いになるためしない。

・購入苗の場合、ポットに1～2本しかない場合は、2ポット分の苗を合わせて1穴に植えるか、脇芽を立てて1穴の枝本数を5～6本程度にする。

《管理》

・直播の場合は芽が出揃った頃、購入苗は定植時にタチガレン液剤500倍をかけると苗立枯病の発生を抑えられる。

・本葉3枚目で葉に切り込みが入ってくるくらいがベスト。茎径が太く、本葉4、5枚目が丸葉の場合は、下から着果節位まで葉を落したり、栄養成長から生殖成長にする剤（メリット赤等）で生育を抑制する。

・第1番果が落ちず着果したら追肥する。（基肥の1～3～1～2程度）その後は10日～2週間おきに追肥をする。

・5日以上晴天が続く場合は灌水する。

・大雨や台風通過後は葉面散布剤や発根剤で株の回復を図る。

・畦間に水が滞水しないよう、定期的に排水対策をする。

《収穫》

・果実の大きさが10cm前後が収穫時期。大きすぎたり、水分が不足すると固くなり食べられないので注意する。

・収穫は早朝がよい。（昼間は実が柔らかくなり日持ちしない）





5月・6月の柑橘園管理



果 樹

原口 悠貴

下島営農指導センター
080-2725-7775

1. 病害虫防除

品 種	対象病害虫	属性	農薬名	希釈倍数	散布時期
全品種	ケシキスイ類 コアオハナムグリ	劇物	モスピランSL液剤	4,000 倍	満開期 (開花期間)
全品種	灰色カビ病 そうか病	普通物	ファンタジスタ顆粒水和剤	4,000 倍	
中晩柑	ホコリ・サビダニ カイガラ類	普通物	モベントフロアブル	2,000 倍	5月中旬～下旬 (落弁期～一次落果期)
	黒点病	普通物	ナティーボフロアブル	1,500 倍	
全品種	カイガラシ類 ゴマダラカミキリ	普通物	トランスフォームフロアブル	2,000 倍	6月上旬 (2次落果期)
	黒点病	普通物	混用 ジマンダイセン水和剤	600倍	
	展着剤	普通物	加用 アビオンE	1,000倍	
温州	ミカンハダニ	普通物	ハーベストオイル	200倍	6月中旬～下旬 (2次落果終了後)
	黒点病	普通物	ジマンダイセン水和剤	600倍	
	ホコリ・サビダニ	劇物	ハチハチフロアブル	2,000倍	
中晩柑	ミカンハダニ	普通物	ハーベストオイル	150倍	6月中旬～下旬
	黒点病	普通物	ジマンダイセン水和剤	600倍	
	ミカンサビダニ	劇物	ハチハチフロアブル	2,000倍	

※ケシキスイ類、コアオハナムグリには、エクシレSE「普通物」5,000倍も使用可。(開花期) ※灰色カビ、そうか病はフルーツセイバー1,500倍「普通物」も使用可。(開花期) ※モベントフロアブル「普通物」で皮膚炎等の恐れがある場合は、アグリメック2,000倍を使用する。
※カイガラシが多い園では、エルサン乳剤「劇物」1,000倍を散布。(6月中旬～下旬)

2. 施 肥 (通常タイプ)

栽培タイプ	施肥時期	品種名	10a当たり
果樹専用スペシャル 又は 果樹専用「極」	6月上旬	早生・中熟・普通温州	2袋
		河内晩柑・清見・甘夏・ パール柑	5袋
		ポンカン	3袋
		デコポン	4袋

3. 葉面散布

目的	薬 剤 名	希釈倍数	備 考
樹勢維持	尿素 又は ニューアミノ ジューシーN14又は 神協スピリッツ	500倍	収穫後：3回程度集中散布 及び 発芽～新梢伸長期
緑化促進	葉面マグ	200倍	緑化が遅れそうな場合
新梢充実	ジューシーカル	1,000 倍	デコポン等

4. 着果対策 (かんきつ)

ジベレリンの散布…ジベレリンを散布する事により、着果性が向上します。主に赤道部を中心に散布しましょう。
尿素を500倍加用する事により効果が上がります。

○使用時期…開花～満開10日後 (開花後処理時期が早いほど効果が高い)

希釈表 (開花期) 25ppm	ジベレリン液剤	40ml の場合	水 8L に1本	尿素 500倍 (16g)	使用液量 10a当たり 50～100ℓ
	ジベレリン液剤	100ml の場合	水20L に1本	尿素 500倍 (40g)	



農作業メモ



水 稲

田代 好幸

農畜産課
0969-22-1105

中干し後の水管理

中干し終了後(平年5月末日)から穂ばらみ期前までは、間断灌水で管理し、水と空気を根に補給し根の活力を上げ登熟向上に努めてください。

穂ばらみ期から出穂期にかけては稲の体力消耗が激しくなりますので、深水管理を行いましょう。*1株の茎数が18本程度確保できたら中干しを行ってください。(中干し期間は、5月10日頃から10日間程度で、稲の状態を見ながら中干し実施)

穂肥施用

6月上旬より幼穂の観察を行い、穂肥の施用時期を見つけましょう。畦から1m以上水田に入り標本を採ります。標本は株の最長葉の茎を一枚のは場から3株以上取ります。茎は一枚ずつはいで、幼穂の長さを測ります。長さが1.0～1.5ミリの頃に穂肥を施用します。

穂肥の目安 (出穂前25日前後 —— 幼穂長1.0～1.5ミリ)

葉色	4未満	4以上4.5未満	4.5以上
有機苦土047	15kg	10kg	施用しない

葉色の判定は、葉色板(カラスケール)を使用してください。太陽を背にして稲の葉色を見ましょう。

病害虫防除

特別栽培においては防除回数に限られていますので、健全な稲

作りと畦畔の草刈り等や、ほ場の見回りの徹底による耕種的防除と組み合わせた適期防除に努めてください。(病害虫情報は、各支所経済課へ問い合わせてください。)

尚、5月中旬頃から、葉いもち・紋枯病の発生が始まっていますので、5月上旬頃にオリブライ豆つぶの予防剤の散布を実施して下さい。(中干し前に散布し、7日間は落水しないでください。)

*中干し後でも、散布は可能です。

*オリブライ豆つぶ250g/10aは、あずき豆ほどの大きさで水面に落ちると自分で拡散します。あぜから、5mおきを目安に水田中央に向かって5mを目安に、ひとにぎりを散布してください。

防除の際は、使用基準を遵守し飛散等のないよう心がけるとともに、栽培管理台帳への記入もお願いします。

農作業に伴う道路の泥汚れ防止について

トラクター等の農作業の際は、田・畑から公道に出る前には必ず機械に付いている泥を落としてから走行するようにお願いします。

道路に落ちた泥は、通行の妨げになる恐れがあります。また、みだりに道路を汚損することは法律で禁止されており、違反した場合は一年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処せられます。(道路法第43条第1項、道路法第102条3項)

道路に泥などで汚した場合は、速やかに清掃するなどの対応を行い、道路はいつもきれいに保ちましょう。